

はじめに

21世紀の日本の政治は、変化に富み、「誰がどんな作戦で勝つのか」と観戦しても、「なぜ変化するのか」という知的好奇心で分析しても、興味深いものがあります。

また別の人は、日本や社会が良くなるかに関心を持つでしょう。たとえば2012年～13年の衆院・参院の選挙での自民党の大勝、民主党の大敗、維新の会の進出を受けて、「日本を強くする転換だ」との期待とともに、「右傾化」への不安も聞かれます。

日本政治や民主主義についての教科書を、僭越ながら「ガイドブック」と名づけたのは、基礎知識の分かりやすい説明に加えて、そこから政治学研究の世界へと案内し、また複数の枠組みや視点、賛否両論を情報提供して、政治について考えていただく趣旨からです。

政治に関する情報を見ると、あくまでも一般論ですが、政治家や評論家の手によるものは経験にもとづき分かりやすくても、「一刀両断」に陥り、根拠となる資料や文献も示さないことがあります。学者が書くものは資料や観察にもとづき洗練されていますが、難解な理論の紹介や、細部の学問的証明に傾注することもあります。

この本は、政治学の研究成果や資料・データを用いながら、明快に読みやすく書きました。

加えて強調したいのは、政治を勉強するとき、知識を暗記し、トリビアを楽しむだけでは足りないということです。何といても意見や利害が分かれ対立する（ことが意味のある）世界ですから、複数の立場や論理を知り、ときどき疑い、どちらが的確かを考え、論じる力が求められます。

そこで、「ガイドブック」を目指す本書は、そうした自学やディベート、知的探求を進めやすいように、いくつかのしくみを設けました。

- ◎各章末で、章のテーマに関する基本書や、良質のまたは興味深い資料が得られるウェブサイトを紹介した。
- ◎それに加えて、本文中カッコ内の参考文献は、ページ数まで記した。読者は効率よく、その事項を研究・確認するための情報源にアクセスできる。……カッコ内に執筆者と刊行年で示した文献のタイトルは、本の末尾の参考文献リストを見ていただきたい。
- ◎問題を多面的に考え、熟慮し、またディベートにも活用できるように、賛否両論など対抗する主張を紹介し比較するよう配慮した。さらに、それを表形式にまとめた【議論の整理】を、重要な論点について置いている（2、5、9、10、11章）。……まずこの【議論の整理】を眺め、表の空欄に自分の意見を書いてから、本文を読むという順序もありうるだろう。
- ◎図表6-1の略年表で、近現代の政治や社会の有名な場面をリアルに「体験」できる優れた映画を紹介しているので、ぜひ鑑賞していただきたい。

この本の構成について説明します（詳しくは、Ⅰ～Ⅲ部の初めにある導入部分を参照）。

第Ⅰ部「日本政治の基礎知識」は、日本政治のしくみの中核、つまり憲法上の制度である国会、選挙、内閣・行政、地方自治、さらに政治的な座標軸（対立軸）や理念を、分かりやすく説明し、「80ページで読める日本政治入門」になっています。

Ⅱ部とⅢ部は、今とこれからの重要な政治的争点を掘り下げます。第Ⅱ部「民主主義とポピュリズム」は、民主主義の多面性、その特定の面だけを強調するポピュリズム、そして政党間競争の解説・検討。第Ⅲ部「制度「改革」をめぐる議論」は、ニュースでもよく取り上げられる、首相公選、参議院改革、道州制、憲法「改正」をめぐる論争の分析です。

教科書がふつう、制度やアクターを順に章として並べるのに対して、この本のⅠ部とⅡ、Ⅲ部は、「基礎と発展」の関係です。Ⅰ部で紹介した問題のいくつかに、Ⅱ、Ⅲ部が再び光を当て考察を発展させる構造になっています。

関心に応じて、次のような読み方もできるでしょう。

A 初級コース	とりあえずⅠ部を読んで、日本政治の全体像を把握したうえで、Ⅱ、Ⅲ部の関心あるテーマを拾い読みしてください。
B 中級コース	Ⅰ部は常識だという人は飛ばし、Ⅱ、Ⅲ部で日本政治の激動や論争を考えてください。
C 「民主主義」コース	1章、5章、6章、7章、8章、11章がとくに関連します。
D 「選挙分析」コース	2章、4章、5章、8章、9章がとくに関連します。
E 「政治制度改革」コース	5章、6章、9章、10章、11章がとくに関連します。

なお、論争的なテーマを扱う場合、一方の立場から書き進めるスタイルと、両論を併記する「完全中立」のスタイルがありますが、この本は中間です。つまり、両論（と参考文献）を紹介するが、事実と論理から導き出された筆者の意見も述べ、今後深めるべき議論のポイントに触れています。

また、政治学研究としては、多少の国際比較をしながら、日本政治における争点軸、日本型の保守優位政党システム、自民・民主の基礎票の格差、「市民」と「大衆」の比率、「他律型」政党支持、右派ポピュリズム、道州制、憲法96条などについて、比較的知られざる情報や新たな仮説を提示しようとしてしました。こうした「実証研究しにくい重要なテーマ」が、より研究されるきっかけになればと願います。

大学の教養（政治学入門、日本政治入門）の教科書、および専門の参考書として書きましたが、同時に、一般の方々、マスコミ関係者、さらに政治家の方々にも、読んでいただけるかもしれません。

この本が、単純化しても、神秘化しても、強者に委ねても、見捨ててもいけない日本政治について、知識と複数の視点を身につけ、合理的な意見を持ち、賢明な政治参加と改革・改善を考えるための「ガイドブック」として多少とも役立てば、幸甚に存じます。